

論旨は「全織と農村の連携を！」

宮崎県・全旭化成労働組合連合会長浜労働組・甲斐 泰

田舎から延岡へ

私が旭化成に入社したのは、「もはや戦後ではない」の言葉が巷に流れようとした昭和29年のことだった。それまで熊本県阿蘇郡のはずれの寒村、阿蘇山が噴火すれば大量の火山灰が降り、霜のおりないのは年間7月と8月だけ、6月の初めまでは降霜があり、9月の終りにはもう初霜を見た。村内の働き手は皆北九州の炭鉱、その他鉱山に仕事場を求めて出て行くと言った状況であった。農業の殆どは畑、当時は「たばこ」の栽培が収入源の大きなものであったが、これの栽培には大変な労力が要り収穫前に台風でもくると、本当に惨めな有様を呈したものである。私も両親と相談し、落日の炭鉱より街中の生産工場を目指して、兄もいる（兄は塗装店をやっていた）延岡を目指して田舎を捨てて出て来た次第である。

働き口は延岡では矢張り大企業の旭化成。学歴も何もない体ではあるが、ここで一生懸命働いてみようと思入社できたのが前記29年の4月のことである。職場はベンベルグ工場の紡糸工程、仕事も田舎で百姓していた思いに比べればそれは楽なもの、職場にも慣れ友達もできて楽しい毎日を過ごすことができた。

断っておきますが、私は既に結婚しており子供もできて田舎の牛馬を飼い、田畑を耕す仕事より数倍も楽なものであった。

運動の中から弁論大会へ

そんなとき職場の執行委員・代表委員の方が中心になって選挙活動が始まったのである。地方の県議会議員・市議会議員、そして国政を左右する衆議院・参議院の選挙まで。私たちは仕事の終わった定時後、地域に住む仲間と共にペアをつくり活動して回った。

この頃、捨てた田舎に住む人たちが少しでも住みよい地域を、そして国政をどう思っているか？たまたま帰郷したとき、田舎にて暮しているお年寄りなどに聞いてみると、村会議員選挙・村長選挙にはそれぞれ運動員の方が来て「お願いします」を繰り返していくけれど、国政などについては殆んど無関心であることを発見した次第である。

職場に帰って代表者の方に、私たちの組織全織同盟（正確には全国繊維産業労働組合同盟）でも、こうした寒村にも私たちの政治活動の輪を拡げたら、世の中も少しは変わるのでないか？と言ったところ、「それはいい発案だ、全織の弁論大会にでも出て、その意見を述べたら」と言うことになり、昭和40年（入社してからもう11年経っていたが）組合活動をしている中から得た経験と、感じたことを率直に職場の代表委員の方に相談したのである。代表委員の方は執行委員の方にもその意向を伝え、本格的に弁論の原稿づくりから取りかかった次第。

当時「弁論大会」は、それは非常に盛んで、旭化成だけでも延岡に6つの工場があり、それぞれ労働組合があって（我々はその組合を単組と呼んでいた）その組合から「我こそは」と自認している弁士の方がいた。

私の演題は、「全織と農村の連携を強めよう」と言うもので、農村出身者の多い全織の組合員がそれぞれの故郷に帰り、政治の正しく進む道をPRするものだった。単組対抗

での弁論大会で2位を獲得することが出来、九州大会に出場することになった。職場の代表委員の方、単組の執行委員の方がそれ以降私よりも真剣になられ、私の仕事が終わるのを待ち兼ねて、組合の会議室につきっきりで発声の仕方、間のもち方、力を入れるところ、訴えるところを、ストップウォッチを持ちながら指導された。勿論私も一生懸命になって期待に応えられるように頑張ったが、私の心の中では「私のような初出場の人間がなんで入賞などする筈がない」と諦めにも似た思いと、真剣に指導して下さる代表委員・執行委員の方に少しでも酬いることができたかと眠る間も惜しんで練習を繰り返したのである。

「全織と農村の連携を！」九州大会で第1位

そして忘れもしない九州大会に臨んだのが7月23日。みんなすごい人達ばかり、その雰囲気にも圧倒されながら、私の出番だ。「ここで落ち着かなければ」と何とか指導を受けた通りに話ができ弁論を終った。審査員は組合の幹部の方たち、全織同盟からも南九州の支部長もこの中に入れられ、結果発表までそれは長い時間が感じられました。その間、主催される側の方で面白い寸劇、トークショーなどあったが、私にはそれに耳を傾ける余裕すらなかった。あちこちで聴衆の人達のそれぞれの評価「あの人はここがよかった」「この人は捉えた演題が面白かった」など耳に入るが、私の論旨に関する話題は全然ない。応援に来て頂いた執行委員・代表委員の方は「よかった、少しのミスもなかった、よく頑張ってくれた」と労をねぎらって頂いた。いよいよ発表である。

3位の方から演題と氏名コメントがあり、2位までに私の名前は出てこない。半分諦めかけていたところ優勝者のところで驚くべき結果が。私が第1位優勝したのである。表彰状の授与がありコメントが発表された。全織同盟の南九州支部長から「今回の発表テーマはまさに今の全織同盟の活動を進める中で、最も身近に進めなければならない重要なことである」と。表彰状の授与、賞品の授与、私は雲の上を歩いているようで、今でも詳細は記憶に残ってない。

私たちのベンベルグ労組の掲示板に、私のことが書きだされた。いろいろな人から「おめでとう、良かったね、次も頑張れよ」と。そう次の全国大会が待ちかまえているのである。組合長からもいろいろなアドバイスを賜ったが、これからが大変。全国大会に向けて、旭化成延岡の講堂でもあり、いろいろな催しものができる『洗心閣』での練習が始まった。仕事が終わったあと執行委員・代表委員の方を中心に、よその職場からも多くの聴衆の方が私の話を聞きに来られ、大いに感激したものである。練習は本番と同じく制限時間10分が正確に守れるよう、早過ぎても駄目、タイムオーバーしたら勿論減点で、それは九州大会にも増してハードな練習の繰り返しに明け暮れたのである。その頃は私の父母とも健在、特に父は小さい点の指摘も手をとるように指導してくれた。

その様な中、全国大会の開催が告げられた。場所はなんと長野県の白樺湖畔、今度は指導して頂いた執行委員の方も代表委員の方の同行もない。九州地区から選抜された組合活動で素晴らしい成績をあげた人、教宣部の活動で実績を挙げた人などで、私の知っている人など一人もいない状況で九州地区代表の結団式が行なわれ、JR（当時の国鉄）を利用して遥か長野県まで、皆元気一杯出発した。何回も乗り換えがあったが、無事信濃高原の茅野市に到着した。来て見てびっくり、日本全国から集った全織の仲間は2,500人とのこと。8月14日に到着。「空気が美味しい」「水が冷たくてうまい」とは皆

さんの評価。午後1時から受付開始、八ヶ村に分かれて（私たち九州は阿蘇村）午後5時に支部旗を先頭に開会式が行われたのである。翌8月15日早朝から各村行事が行われ、見事に初当選した「瓜生清」参議院議員の顔もあり、私も一生懸命に運動して回った勝利の実感が身にしみて嬉しさ一杯であった。

午後から弁論大会。私の出番である。全国各ブロックからの代表者が勢ぞろいして、苦心した練習成果を皆さんの前で意見を述べる舞台が現実にやって来た。抽選で順番が決まり、弁論の開始。皆私よりウンと若い人達。綺麗な女性の顔も見える。ここまで来たら俎上の鯉、延岡で練習したことをそのまま落着いて発表することができた甲斐あってこの全国大会の中で、準優勝2位を獲得することが出来た。

審査委員長は全織同盟の滝田実会長、審査委員も参議院議員の瓜生清さん、その他匆々たる方たちのもとで九州から、この年齢になってから初出場の私が堂々の2位を受賞したのだ。私に下されたコメントは今でもよく覚えている。九州大会のとき南九州支部長のコメントと殆んど同じ。「テーマのとらえ方としては最も適切であり1位との点数も接近していました。なお、表現をねることと、論旨の構成には一考を要します。弁論のなかで「選挙のときだけの農村対策ではダメだ」という指摘がありましたが、この点については全織同盟としても、これから考えていかなければならない問題になるでしょう」との講評を戴いた。

優しい滝田会長の笑顔と、賞状を受けるとき「よく頑張りましたね、今後も尚一層の活動をお願いしますよ」との激励に涙がでる程の感動を受けた。

あれから42年、思い出の白樺湖畔にも一度訪れたことがあり、今年の歴史探訪の旅でも再度茅野市を訪ねたが、本当に限らない追憶に立ち去り難い感じをしたものです。

運動の苦しさを克服した喜び

私はその後あらゆる各選挙に、仲間とともに一心になって頑張った。運動（活動）のときの苦しさ、それを克服して当選させた喜び、又落ちたときの無念さを幾度となく経験させて頂いた。いつしか私も職場の執行委員となり、次には単組の副組合長、そして入社したときは思ってもいなかった組合長へと変わった。上部機関である旭連本部の指導と、叱咤激励のもとに私達の組織の中から衆議院議員選挙に「米沢隆」氏を見事当選させ、国政の場に送りこんだことは最上の喜びであり達成感を得た。その選挙活動はまさに命がけ、全力を尽しての地域回り、返事の悪いところでは玄関の土間に座りこんでお願いして回ったものである。

あの住んでいた田舎のお年寄りが言った言葉、ここを忘れては日本の政治を変えることはできない、と思ったその思いを代表委員の方に伝え執行委員の方も一緒になって苦労に苦労を重ねたことが、今の私を忍耐強い精神に作りあげたと思っている。60歳で会社を定年退職し、地域のボランティアに汗を流しながらきた私の人生。今「喜寿」を迎えて、曾孫も生まれようとしている幸せをかみしめて、若い頃に地域活動をしたことをしみじみと思い出している現在である。苦しかったが、楽しかった「いい人生」である。

以上